



# エコマーク ニュース

Eco Mark News

エコマークは公益財団法人日本環境協会が自主的に運営している事業です。エコマークの活動予算は、すべて認定企業の皆様からのエコマーク使用料ならびに商品認定申込者の皆様からの商品認定審査料でまかなわれています。「エコマークニュース」では、「エコマーク事業実施要領」に基づき、エコマーク事業に関する情報を提供しています。

2018.4.1 No.102

## 2017年度「エコマークフォーラム」を開催しました



「エコマークアワード2017」受賞者による記念撮影

2018年1月22日、消費者、事業者等のステークホルダーが集うコミュニケーションの場として、「エコマークフォーラム」を開催しました。本イベントでは、「エコマークアワード2017」表彰式と受賞団体による取り組みの紹介、ならびにエコマークのステークホルダーによるディスカッションを行いました。多くの皆様のご来場、誠にありがとうございました。

## 目次・CONTENTS

### エコマークフォーラム特別報告

- 「エコマークアワード2017」表彰式、ディスカッション…2

### 認定基準に関するお知らせ

- 認定基準の制定、認定基準の改定 ……4

### 委員会報告

- 運営委員会、基準審議委員会 ……5

### エコマーク事務局からのお知らせ

- 第4期中期活動計画について ……5

### 国際協力活動

- GEN役員会・年次総会出席、ほか ……5

### トピックス

- 「エコプロ2017」出展、セミナー開催、ほか……7

## エコマークフォーラム特別報告

2018年1月22日に開催した2017年度「エコマークフォーラム」について概要を報告します。

### ●「エコマークアワード2017」表彰式

「エコマークアワード2017」の表彰式を行いました。今回が8回目となるエコマークアワードには、以下の6団体が選ばれました。受賞団体の皆様、おめでとうございます。表彰式に続いて、受賞理由となった取り組みについて、各受賞団体より発表が行われました。

◆受賞団体によるプレゼンテーション資料は、エコマーク事務局ウェブサイトにてご覧いただけます。( <https://www.ecomark.jp/info/forum/2017.html> )



#### ■最優秀賞

ミドリ安全株式会社  
より安全、より安心な  
地球環境へ。



#### ■優秀賞

株式会社京急百貨店  
お客様と一緒に取り組  
む環境配慮活動を目指  
して



帝金株式会社  
エコマーク商品等に  
おける技術開発の革新性



株式会社トンゴ鉛筆  
エコマーク商品の継続  
的な販売



[公共部門] 横浜市  
環境配慮型商品調達率  
100%に向けた横浜市  
の取組



#### ■プロダクト・オブ・ザ・イヤー

[再生プラスチックを使用したプラスチック製容器包装]  
CO・OPセフターE (認定番号: 16 140 005) など

[植物由来プラスチックを使用したプラスチック製容器包装]

CO・OP味わい豊かなインスタントコーヒー (認定番号: 17 140 001) など  
日本生活協同組合連合会



## ●「エコマークアワード 2017」講評—選考委員長 西尾チヅル氏（筑波大学大学院教授）

環境コミュニケーションとは、優れた技術と、社会に対して持続可能で魅力的な商品・サービスを提供したいという、ものづくりやサービス提供に従事される社員、職員のみなさんの真摯な思いがあってこそ、初めて実現できるものだと、今回あらためて思い知りました。

また、受賞された企業は、いずれも当該カテゴリー・商品において第一号のエコマーク認定です。当該カテゴリー・商品における環境配慮とは何か、ということ、エコマーク認定取得によって消費者や社会に広く示すとともに、環境配慮のトップランナーとして、業界と市場をけん引しているということです。これらの素晴らしい功績をたたえたいと思います。



選考委員長 西尾チヅル氏

## ●ディスカッション「今後のエコマーク認定サービスの展開」

エコマークアワード選考委員長である筑波大学大学院教授の西尾チヅル氏をコーディネータに迎え、エコマーク認定飲食店「プロント」を運営する株式会社プロントコーポレーションの森谷晋一氏、「エコマークアワード 2017」受賞の株式会社京急百貨店の葛間浩邦氏、NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネットの鬼沢良子氏、そしてエコマーク事務局が参加し、エコマーク認定サービスの今後の展開についてディスカッションを行いました。今年度新たにエコマーク認定の対象となった「飲食店」での認定店舗誕生を機として、サービス分野におけるエコマーク取得の経緯や今後の活用について議論が行われました。

はじめに、エコマーク認定を取得するに至った背景や認定取得のメリットとして、エコマークは広く知られた身近なマークであるため従業員にも分かりやすい、また、広告等への表示によってエコなことをしていると一目でわかる、などの点が挙げられました。さらに、自社店舗だけでなくさまざまな企業で認定が広がり、多くの店舗に広がって欲しいという意見がありました。

一方、以前は消費者に「エコは我慢」という認識があったが、今は普段行っていることが結果としてエコだとよい、という考えが多く、意識の高い人はもう少しやってみようという傾向にある。意識が高まるのは、企業の努力に加え、消費者が触るもの・見るものなど社会全体の変化によるものであり、お店に行ったら商品にエコマークがついていることは非常に影響力が大きい、というお話がありました。

今後のエコマークの活用としては、若者の発信力に期待し「インスタ映え」にも応えるべくエコマークを目立たせたい、という案や、アワード受賞企業や他のエコマーク認定企業と一緒に取り組んでいきたい、といったアイデアも出されました。



ディスカッションの様子

エコマーク事務局からは、エコマーク認定のサービス店舗を増やすため、2018年度に小売店舗とホテル・旅館基準を見直し、飲食店で導入しているチェーン店での認証を実施するという話とともに、モノ消費からコト消費へのシフトに対応することが重要、という見解が示されました。

最後に西尾教授より、環境対応の共通言語としてエコマークを使うことで、気持ちをシェアすることができる。世界的にも発信力があるタイプI環境ラベルのエコマークを、コミュニケーション手段として企業の方々が環境活動やサービスにもっと活用してほしい、というコメントをいただきました。

## 認定基準に関するお知らせ

### 認定基準の制定

以下の認定基準が制定されましたので、お知らせいたします。

類型番号	商品類型名	制定日	有効期限
145	プロジェクタ Version2 (新 Version)	2017年 8月 1日	2024年 7月 31日
160	廃食用油を使用したバイオディーゼル燃料 Version 1	2017年 8月 1日	2024年 7月 31日
161	シュレッダー Version 1	2017年 11月 1日	2024年 10月 31日
162	ラミネーター Version 1	2018年 3月 20日	2025年 3月 31日
505	飲食店 Version 1	2017年 9月 1日	2024年 8月 31日
506	機密文書処理サービス Version 1	2018年 1月 1日	2024年 12月 31日

◆認定基準は (<https://www.ecomark.jp/nintei/>) をご覧ください。

### 認定基準の改定

以下の認定基準の部分的な改定を行いましたので、お知らせいたします。(Version の No. は改定前のもの)

類型番号	商品類型名	改定のポイント	改定日	
152	テレビ Version 1.1	省エネルギー基準の変更	2017年 9月 1日	
—	有機フッ素化合物 PFOA (パーフルオロオクタン酸) の基準項目を含む商品類型	基準値の変更 (エコテックス規格 100 との整合)		
132	トナーカートリッジ Version 2.1	ドイツ・ブルーエンジェル基準との整合など	2018年 1月 1日	
142	インクカートリッジ Version 2.1			
155	複写機・プリンタなどの画像機器 Version 1.2			
—	木材・木材を原料とする製品の合法性証明の基準項目を含む商品類型	グリーン購入法「判断の基準」との整合	2018年 3月 1日	
103	衣服 Version 3.4			
112	文具・事務用品 Version 2.1			
137	建築製品 (外装・外構工事関係用資材) Version 1.9 D-2 木材・プラスチック再生複合材			
154	太陽熱利用システム Version 1.0			
156	便器などの衛生器具 Version 1.0			
157	給水栓 Version 1.0			節湯水栓の参照先の変更
158	節水器具 Version 1.0			

◆改定点の詳細については ([https://www.ecomark.jp/office/organization/deliberation\\_data/](https://www.ecomark.jp/office/organization/deliberation_data/)) をご覧ください。

## 委員会報告

### 運営委員会（第39回、第40回）

第39回運営委員会が2017年9月28日に、第40回運営委員会が2018年3月20日に開催されました。第39回委員会では、2016年度の事業収支決算と料金規定の一部改定等の報告が、第40回委員会では、2017

年度事業実施状況の報告と2018年度の事業計画と予算および中期活動計画の審議等が行われました。

◆資料等詳細は ([https://www.ecomark.jp/office/organization/steering\\_data/](https://www.ecomark.jp/office/organization/steering_data/)) をご覧ください。

### 基準審議委員会（第24回、第25回、第26回）

第24回、第25回、第26回基準審議委員会が2017年8月10日、10月17日、12月22日に開催されました。審議事項は以下のとおりです。

#### 〈審議事項〉

1. エコマーク商品類型（認定基準）案について

2. エコマーク商品類型（認定基準）の部分的な改定について

◆審議事項および資料等詳細は、([https://www.ecomark.jp/office/organization/deliberation\\_data/](https://www.ecomark.jp/office/organization/deliberation_data/)) をご覧ください。

## エコマーク事務局からのお知らせ

### 第4期中期活動計画について

エコマーク事務局では、エコマーク事業が目指すべき理想的な姿を表した「エコマーク長期ビジョン」を2002年に策定し、これまで、第1期、第2期、第3期中期活動計画を策定し、種々の活動を行って参りました。エコマーク企画戦略委員会およびエコマーク運営委員会での議論を核として検討を重ね、2018年4月から2023年3月までの5年間を対象とした第4期中期活動計画をこのたび策定・公表しました。

第4期中期活動計画では、テーマを「消費者に身近で活用されるエコマークを目指して～親しまれ役に立つエコマークを目指して」とし、5つの柱（1. 社会を誘導する商品類型化、2. 信頼性の堅持、3. 国際化の推進、4. 消費者視点でのコミュニケーションの強化、5. 持続可能な社会の構築に向けた多様な取組との連携）を設定し、第3期中期活動計画で目指した活動・施策をさらに深化させています。

近年の著しい情報技術の進化により、ビジネスモデルや消費者の購買行動など社会が大きく変化し続けています。今後5年間もさらなる変革が起こっていくことが見込まれますが、時代の変化に機敏に対応し、地球温暖化の国際的枠組であるパリ協定に基づく対策や国連の持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた有効なツールとして、エコマークが消費者の商品選択や事業者の海外展開、環境ビジネスの拡大等に広く利・活用されることで、エコマークが提供する付加価値を向上させていきたいと考えています。

なお、第4期中期活動計画の内容に沿って、年度ごとの事業計画にブレークダウンして、ステークホルダーの方々と共に、エコマーク事業を推進してまいります。

◆詳しくは (<https://www.ecomark.jp/office/plan/>) をご覧ください。

## 国際協力活動

### インドネシア・ジャカルタでのイベントに出席しました

2017年8月29日、インドネシア・ジャカルタにてドイツ国際協力公社（GIZ）が主催するイベント「Green Public Procurement (GPP) Nation Wide Promotion」に招待を受け、パネルディスカッションのパネリストとして出席しました。エコマーク事務局

からは、エコマーク制度や相互認証を中心とした取り組みを紹介したほか、インドネシアタイプ I 環境ラベル「インドネシア環境ラベル」の普及活動について、エコマークでも進めている若年層からの普及の大切さを伝えました。

## GEN 役員会・年次総会に出席しました

2017年10月8日～13日にスウェーデン・ストックホルムで開催された世界エコラベリング・ネットワーク (Global Ecolabelling Network、以下GEN) の役員会および年次総会に出席しました。2018年10月25日を世界エコラベリングデーとして定め、GENおよび各加盟団体が取り組む具体的な活動内容などについて活発な議論が行われました。また、新しくコロンビア環境ラベルがGENに加盟することが全会一致で承認されました。来年度の年次総会は、ドイツ・ベルリンで開催される予定です。

※GENウェブサイト

(<http://www.globalecolabelling.net/>)



GEN 年次総会の様子

## 第13回 APRSCP (マレーシア・マラッカ) に参加しました

アジア太平洋地域において持続可能な消費と生産 (SCP) の開発と推進を目的に、18～24カ月ごとに開

催されている国際会議・ワークショップである第13回 APRSCPに出席しました。今回は、マレーシア・マラッカにて2017年10月17日、18日の2日間にかけて行われ、「グリーン経済の実現に向けたSCPの実現」をテーマに、1) イノベーション、2) グリーンファイナンス、3) 低炭素コミュニティ、の3つの観点にフォーカスし、10のラウンドテーブルで議論が取り交わされました。



第13回 APRSCPの様子

## ベトナムへの技術協力について

エコマーク事務局では、ベトナム天然資源環境省 (MONRE) と、タイプ I 環境ラベル「ベトナム・グリーンラベル」およびグリーン公共調達技術協力を見据えた協議を進めています。第1回日越協議が2017年11月ベトナム・ハノイにて、第2回協議が同年12月に日本・東京で行われました。今後、グリーンラベル基準の共同開発や相互認証に向けた具体的な議論、ベトナムのグリーン公共調達を支援するためのワークショップの開催などの技術協力が進むことで、ベトナムにおける環境配慮型製品の普及が期待されます。



ベトナム天然資源環境省との協議の様子

## 相互認証（日中韓「繊維製品」、日中「スキャナ」、日タイ「プロジェクト」）

エコマーク事務局では、環境配慮型製品の国際的な普及や海外のタイプ I 環境ラベルの取得を目指すエコマーク認定商品保有企業のコストや事務作業の軽減を目的に、海外のタイプ I 環境ラベル運営機関との相互認証を進めています。今年度、新しく締結した相互認証協定は以下のとおりです。

- ・中環連合（北京）認証センター有限公司（CEC）、韓国環境産業技術院（KEITI）「繊維製品」（韓国・水原、2017年8月）

- ・中環連合（北京）認証センター有限公司（CEC）「スキャナ」（スウェーデン・ストックホルム、2017年10月12日）
  - ・タイ環境研究所（TEI）「プロジェクト」（スウェーデン・ストックホルム、2017年10月12日）
- 日中韓では8製品目、日中の2カ国間では1製品目、タイとは2製品目の相互認証協定となります。今後も、相互認証の対象範囲拡大に向けて積極的に議論を進めていきます。



日中韓の協定締結の様子



日中の協定締結の様子



日タイの協定締結の様子

## トピックス

### 「エコプロ2017」に出展しました

2017年12月7日～9日に東京ビッグサイトにて開催された「エコプロ2017」に出展しました。今年度新たに誕生したエコマーク認定レストラン（飲食店）とバイオディーゼル燃料を中心としたエコマークの最新動向の紹介や、「エコマークアワード2017」受賞団体の発表、世界の環境ラベルのゲームを行いました。ブース内の展示を見ながら答えるクイズツアーには、約1,200名の方にご参加いただきました。

また、イベント初日の7日には、エコプロ2017同時開催セミナー「世界のグリーン公共調達と環境ラベルの最新動向」（主催：環境省、日本環境協会）を開催しました。UN Environmentから見たGPPと環境ラベルの最新動向に関する基調講演にはじまり、アメリカ、ベトナム、ドイツから専門家を招き、各国の最新動向について講演いただきました。

エコマーク展示ブースおよびセミナーにお越しいただきありがとうございました。



エコマーク展示ブース

## 環境表示の信頼性確保のためのセミナーを開催しました

2月23日と27日に、「環境表示の信頼性確保のためのセミナー ～木材の合法性証明について～」(主催：環境省、日本環境協会)を東京と大阪にて開催しました。グリーン購入法に基づく特定調達物品等の信頼性を確保するため、グリーン購入法適合製品の適切な表示・確認、木材・木材製品(紙類など)の合法性確認を主なテーマとしました。関係各業界の取り組みの紹介や、合法性の確認方法の一つとしての環境ラベルの活用事例など、グリーン購入の推進において参考になる内容となりました。多くの皆様のご来場ありがとうございました。



セミナーの様子

## 各地の環境イベントに出展しました

エコマークは、各地で開催された以下の環境イベントに出展しました。

- ・2017年7月23日 「エコプロダクツ川越」(埼玉県川越市 環境プラザ「つばさ館」)
- ・2017年8月5日 「2017としまエコライフフェア」(東京都豊島区役所 としまセンタースクエア)
- ・2017年10月20日 「びわ湖ビジネスメッセ」エコマーク認定取得相談会(滋賀県 長浜バイオ大学ドーム)
- ・2017年11月18日 「なかのエコフェア2017」(東京都中野区役所)
- ・2017年11月19日 「つばさ館まつり」(埼玉県川越市 環境プラザ「つばさ館」)
- ・2018年1月14日 「それいけ!クールチョイス大作戦～ちきゅうをすくうのはきみたちだ」(埼玉県秩父市 歴史文化伝承館)
- ・2018年1月12日～2月11日 「東海三県一市グリーン購入キャンペーン」
  - 1月20日、21日 「eco フェスタ」(名古屋市 ヒルズウォーク徳重)
  - 2月3日、4日 「リーフエコ博」(愛知県稲沢市 リーフウォーク稲沢)



(左) 豊島区でのイベントの様子  
(右) 秩父市でのイベントの様子

エコマークニュース 第102号 2018年4月1発行

編集・発行/公益財団法人 日本環境協会 エコマーク事務局  
〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-4-16 馬喰町第一ビル9F  
TEL: 基準・認証課 03-5643-6253 FAX: 03-5643-6257 (各課共通)  
事業推進課 03-5643-6255  
契約・監査課 03-5643-6255  
Homepage: <https://www.ecomark.jp> E-mail: [info@ecomark.jp](mailto:info@ecomark.jp)



エコマークは(公財)日本環境協会の登録商標です。